

ニュー ダイナミック イングリッシュ

学習ガイド（中級の上／上級）

www.dyned.com

目次

はじめに	3
コースの構成.....	4
学習ガイドの使い方.....	5
学習の秘訣.....	6
レッスンの進め方.....	7
音声認識のレッスンを始める前に.....	9
音声認識機能の使い方.....	10
暗号 (The Secret Code).....	12
UF0s (未確飛行物体).....	21
復習 (Review Exercises).....	32
ビデオ会話 (Video Interactions).....	39
付録1：音声認識機能に関する注意事項.....	42
付録2：Verb Markers.....	45
付録3：練習問題の解答.....	47

はじめに

ダイナミックイングリッシュが、より充実して新たに登場！クラスで実証された教授法に基づき、経験を積んだ指導者によって開発されたコースウェアです。このコースは語学を習得するのに最も重要な「聞き取り」に重点を置き、マルチメディアの効果を最大限に活用しています。それぞれのモジュールには、ネイティブの声で録音された数多くの聞き取り練習、さらにディクテーションや穴埋め練習などの様々な形で聞き取りの学習に焦点を置いた練習問題が入っています。それぞれのレベルに適した語彙と話題が慎重に選ばれ、順序立てて構成され、自然で生きた会話を習得できる様に工夫がなされています。

DynEd 独自のインタラクティブなプログラムによって学習者は自分のペースで学習ができます。学習中いつでも繰り返し聞いたり、日本語訳（ニューダイナミックイングリッシュ 4 を除く）、英文、用語表を画面に表示することが可能です。また、このコースの大きな特徴は音声認識機能を使ったスピーキング練習です。この練習によって、流暢に話す能力が着実に身につきます。更に、録音・音声再生機能を使って、自分の発音とネイティブの発音を聞き比べることもできます。音声認識機能を使用する前にこのプログラムの動作環境をご参照の上、お持ちのコンピュータで音声認識機能が使用可能であることをご確認ください。

コースの構成

レベル

ダイナミックイングリッシュの新シリーズには4つのレベルがあり、それぞれ2つのモジュールで構成されています。ニューダイナミックイングリッシュ1は、初級者を対象としています。ニューダイナミックイングリッシュ2は初級／中級の下、ニューダイナミックイングリッシュ3は中級レベルに焦点が置かれています。ニューダイナミックイングリッシュ4は中級の上、及び上級者を対象としています。

レッスン

ニューダイナミックイングリッシュには、いくつかの異なるタイプのレッスンがあります。「メインレッスン」では、何人かの人物が登場し、それぞれの生活や活動について紹介します。また、季節や気候、環境など一般的な話題について話し合います。「メインレッスン」に続く他のレッスンでは、「メインレッスン」で導入された単語や文法の復習をします。モジュール1の「Question Practice」では、質問文を作成することで理解力をより確かなものとします。モジュール2の「Matrix Game」では「Vocabulary Practice」のレッスンで学んだ語彙を復習します。それぞれのモジュールで学習する「Focus Exercises」は、文法に焦点を当て、「Dictations」と「Fill-Ins」は、表現や文法の細部を確認することにねらいを置いています。これらのレッスンは他のレッスンを学習した後にすることをお勧めします。「Video Interactions」では、電話での対応の仕方など日常起こるいくつかの場面を設定し、状況に適した表現を学ぶと同時に、ビデオの中の人物と実際に会話をすることでスピーキング能力を向上させることができます。

学習ガイドの使い方

この学習ガイドには、登場人物や文型、あるいはその両方を集中的に学習する方法など、それぞれのレッスンの重要な学習事項が紹介されています。まず最初にレッスンを一通り学習し、次に各文毎に文法や語句を何度も繰り返し学習してください。一度にいろいろなことを学ぼうとするのではなく、焦点を定め繰り返し学習することが大切です。

ニューダイナミックイングリッシュは、学習の進度に応じて語彙、表現、文法などの難易度が自動的に変化するように設計されています。ですから、学習ガイドに提示された学習事項に沿って、レッスンの中のそれぞれの登場人物、文法、構文に焦点を絞り学習すると、より学習効果が上がります。

各インタラクティブセッションの復習として、学習した文を暗唱したり書いたりしてください。また、実際の日常生活の出来事などを英語で表現してみてください。最後に学習ガイドの練習問題に取り組み、巻末の解答と照らし合わせてください。

学習の秘訣

毎回 20～45 分間のインタラクティブ学習をお勧めします。最も効果的な学習をするためには各レッスンを何回も、できれば違う日に繰り返し学習することが望ましいでしょう。各レッスンでの学習累積時間とレベルは、Student Records（ユーザーズガイド参照）で確認してください。各レッスンでのレベルが 2.5 以上に達するまで学習してから、次に進んでください。

語学を学ぶことは、楽器を練習するようなものです。時間をかけて何度も練習、反復し、身につけてはなりません。各レッスンでより多くの時間を費やす程、多くのことを学ぶことができます。しかし、楽器の練習と同じ様に、効率良く時間を使わなくてはなりません。学習をする時は常にそのセッションの目標や目的を設定して行うと良いでしょう。そうすることによって、さらに集中した学習ができ、語学習得の長い道のりをより効果的に乗り越えることができます。

レッスンの進め方

(注) プログラムの始め方が分からない時は、ユーザーズ ガイドをご覧ください。
プログラムに慣れるために次の要領で最初のレッスンを学習してください。

1. 各文ごとに一時停止ボタンをクリックしてください。再生ボタンに変わり緑色の矢印が点滅します。
2. 再生ボタンが点滅している状態で繰り返しボタンをクリックしてください。同じ英文をもう一度聞くことができます。
3. 再生ボタンが点滅している状態で翻訳ボタンをクリックしてください。日本語訳を聞くことができます。
4. 再生ボタンが点滅している状態でテキスト表示ボタンをクリックしてください。英文テキストが表示されます。テキストの中のハイライトされた単語をクリックして用語表を参照してください。
5. 再生ボタンをクリックしてください。点滅がとまり、次の文に進みます。

(注) コースウェアに慣れるまでは、気がつかないうちにプログラムが止まった状態になっていることがあります。再生ボタンが点滅していると、プログラムは一時停止しています。プログラムを再開し先に進むには、点滅している再生ボタンをクリックしてください。質問されている時は、回答をクリックしてもプログラムを再開し、先に進むことができます。繰り返しボタン、翻訳ボタン、テキスト表示ボタンをクリックすると、プログラムは自動的に一時停止の状態になります。

	音声録音		繰り返し
	音声再生		一時停止
	テキスト表示		再生
	翻訳		巻き戻し
	終了		早送り

6. 前記のステップを各文でやってみてください。前の文に戻るには、巻き戻しボタンをクリックしてください。レッスンの最初に戻るには、一旦レッスンを終了させてください。
7. 理解力チェックの質問には時間制限があります。残り時間は、コントロールバーの右側に表示されます。回答に時間が必要なときは一時停止ボタンでプログラムを停止するか、繰り返しボタンを使って質問をもう一度聞いてください。
8. 初めの部分の文を何度か聞いた後に、今度は自分で言ってみましょう。巻き戻しボタンを使って最初まで戻ってください。
9. 録音ボタンを使って自分の声を録音してみてください。録音ボタンをクリックするとランプが緑色に変わります。録音が終わったら、音声再生ボタンを押して声を聞いてください。次に繰り返しボタンを押してネイティブの声と自分の声を比較してください。このステップはヒアリングとスピーキング練習に効果的です。文が長すぎて全部言えない時は、最初か最後の部分だけを言ってみてください。それでも難しくて言えない時は、状況をつかめるまで前後の文を何度も聞いてください。
10. それぞれのモジュールを終わらせるには数時間かかります。一度に全部学習するのではなく、20～30分毎に休憩をとることをお勧めします。
11. オプションメニューを使って用語表、学習記録、シャフラーレベルをチェックすることができます（詳しくは、ユーザーズガイドをご覧ください）。

音声認識のレッスンを始める前に

ニューダイナミックイングリッシュで使われている音声認識機能は、最新の画期的な機能です。音声認識機能を有効に使うことは、スピーキングの良い練習になります。

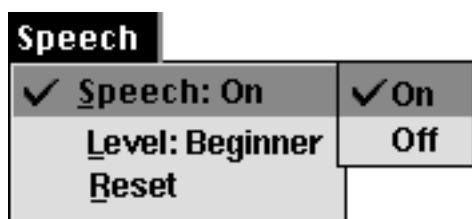
このコースでは、まずメインレッスンをマスターしてから次のレッスンに進んでください。リスニング力を充分養い、単語と構文を充分理解してから音声認識機能を使ったレッスンをする、より効果的な学習ができます。

音声認識機能が使用できるレッスンは、「Question Practice」、「Fill-Ins」、「Speech Practice」、「Video Interactions」です。レッスンに関する詳細はこのガイドブックかコースウェアの中のヘルプメニューをご覧ください。音声認識に関する詳細は、「音声認識機能に関する注意事項」をご参照ください。

音声認識機能の使い方



上の図はスピーチメータです。音声認識機能が音声を取り取っている間は、このスピーチメータが画面に表示されます。スピーチメータが表示されていない時は、音声を入力することはできません。



音声認識のスイッチを入れるときは音声認識メニューから on を選んでください。スイッチを切るときは off を選んでください。



音声認識停止ボタン：文を読み終わった時にここをクリックすると、音声認識機能が止まり結果がすぐ出ます。又、途中で間違いに気付いた時、ここをクリックするとスピーチメータが消えます。



スピーキングボタン：文を言い直す時はここをクリックしてください。スピーチメータが表示されます。



OK ボタン：音声認識後、認識された文とこのボタンが画面に表示されることがあります。文が読み上げた通りに表示されたら、ここをクリックしてください。文が読み上げた通りに表示されなかった場合、スピーキングボタンをクリックしてもう一度言ってみてください。



音声再生ボタン：音声認識されている間は、音声の録音も同時になされています。自分の声を聞きたい時は、ここをクリックしてください。

音声認識機能をご使用になる場合は次のことを確認してください。

1. 音声認識メニューにある難易度を確認してください。「中級」又は「上級」を選択するとの確なスピードと、より正確な発音が要求されます。「初級」を選択した場合、音声認識機能は初級レベルの発音でも正しいと見なすように設定されます。
2. 文が正しいと認識されない場合、同じ言い方を続けなくてアクセントの位置を変えたり、文の読み方をいろいろと変えてみてください。速すぎたり遅すぎたりせず、はっきり言うてみてください。時には、“She is going...”と言わず、“She is going...”と短縮形で言うてみたり、逆に “Here’re”ではなく、“Here are”と言う方が良い場合もあります。

(注) アクセントは特に大切です。例えば、fifteen は i にアクセントがある場合と e にアクセントがある場合があります、i にアクセントがあると fifty と間違えやすくなります。音声認識機能は単語の音のパターンを識別します。違う言葉でも同じ音のパターンの場合、その違いを識別できないこともあります。

3. 音声認識機能が動作しない時は次のことをチェックしてみてください。

*スピーチメニューの on/off スイッチが off になっていませんか。

*マイクロホンがこわれていませんか。

*マイクロホンが正しく接続されていますか。

*マイクロホンが口から離れ過ぎていませんか。

*スピーチメータが表示される前に言い始めていませんか。

*ボリュームが低過ぎませんか。

難易度の変更

音声認識メニューの「中級」又は「上級」を選択した場合、よりネイティブに近い発話が要求されます。なかなかうまく認識されない時は、「初級」を選択してみてください。

暗号 (The Secret Code)

このレッスンでは、あなたが事件の謎を解く刑事役です。事実を基に推理を展開してください。レッスンを通して推量を表わす助動詞、「must」「might」「could」の使い方を学びます。

学習事項 1

まず、「Setting a Trap」で起きた事件の経過に注目してください。事件が起きる6週間前の出来事と、木曜日、金曜日、月曜日の出来事をまとめ、リストにしてください。



A：過去に起きた出来事の順序を述べる時は単純過去形を使い、大抵文中で述べられた順に各々の出来事が起きたとみなされます。接続詞「then」は、一つの出来事の後に他の出来事が起きたことを表わします。

*Before leaving, he changed the passwords and wrote them into his book. **Then**, he locked the drawer.*

- 1. He changed the passwords.*
- 2. He wrote them in his book.*
- 3. He locked the drawer.*

B：過去完了形は、過去の一定時にすでにある出来事が完了していた事を表わします。すなわち、下に示したように、過去形が先で過去完了形が後に来たとしても、過去完了形で述べられた出来事が、過去形で述べられた出来事より先に起きたと言うことを表わします。

Bob became suspicious that someone had opened his desk drawer.

1. Someone may have opened his desk drawer.

2. Bob became suspicious about it.

C：「by」を用いない受動態「the files were opened」は、誰によってその行為がなされたかを述べない用法です。ストーリーの中では、まだ犯人が確定していないので、名前をあげることはできません。

*It kept a record of when the files **were opened**.*

*It also made a record of any passwords which **were used**.*

*Then, he checked to see when his desk **had been opened**.*

Follow-up Practice

最近、夜外出した時の出来事を、過去形、副詞「then」、過去完了形を用い、起きた順に述べてみてください。

学習事項 2

次は、容疑者に注目します。各々の容疑者をクリックして情報を聞いてください。情報の要点は、画面にも表示されます。次のセクションで推理が展開できるように、各々の容疑者が週末にオフィスに行くことができた時刻を表にしてください。その際、下記の表を参考にしてください。また、容疑者の個人的な状況や考えられる動機もメモしてください。



Suspect Summary Chart

	Saturday	Sunday
Shirley Long	Left office by 11:00 A.M.	Was in Europe - not in office
Phil Rose		
Leslie Ho		
Dan Carter		

学習事項 3

いよいよ推理の段階です。このセクションで最初に述べられる情報を聞き、新しい情報があればメモに加えてください。ファイルが土曜日と日曜日の2回アクセスされたという事実は重要な点です。あなたのメモを基に犯人は誰か推理してみてください。

下記の文で等符号の左右の文は同じ意味です。

It could have been Shirley (who did it) = Shirley could have done it

If it was Shirley (who did it) = If Shirley did it

推論を述べる時は大抵、仮定法を用いるか、原因と結果を表わす表現を用います。「if」や「because/since」が含まれた節は、その結論に至る条件や理由を述べています。下記の表に示したように助動詞によって推論の確実性の度合が異なってきます。

Modal	Logical Judgment
must	logical necessity
might	logical possibility
could	logical ability/potential
could not	no ability/potential = logical impossibility

例 : *Since nobody opened Bob's drawer, there must have been another way to find the codes.*

If Shirley went to the office on Saturday, she might have gotten the codes.

Shirley could have done it because she knows about computers.

Leslie couldn't have done it by herself because she wasn't in the office on Sunday.

仮定法 (Focus Exercises)

文章の空欄に入る適切な単語または語句を選び移動してください。単語または語句は、空欄の数より多くあります。

学習事項 4

最後に誰が犯人かをつきとめます。提示される最後の情報を聞いてください。犯人は、この情報によって決まります。結論が出たら、容疑者の下に表示されたどちらかの欄をクリックしてください。チェックマークが表示されます。正解の時はその謎が明かされます。正解でない時はもう一度情報をあらため直してください。その際、「True/False」の質問を含め少なくともセクションを一つ完全に復習し、このセクションに戻ってください。最後の情報が前回と異なることがあります。従って、結論も前回とは異なるので注意してください。

The Suspects



Guilty					
Not Guilty					

練習問題

A. 下記の情報は誰に関するものでしょう。 — に a-e から適当なものを選び記入してください。

- a. He couldn't have done it alone because he doesn't know anything about computers.
- b. He might have done it since he needs to pay for gambling debts.
- c. He installed an alarm in his drawer, so he would know if it had been opened.
- d. She might have done it because her husband is sick, and they need money.
- e. She couldn't have done it alone, since she was in Europe on Sunday.



Shirley



Phil



Bob



Dan



Leslie

- B. 動詞を正しい形に直してください。その際、時制（過去形、過去完了形）や態（能動態、受動態）も考慮してください。過去形、過去完了形の両方が正しい場合もあります。

1. About six weeks ago, Bob became suspicious that someone (**get**) _____ into his drawer. He wasn't sure, but it looked as though things (**move**) _____ . Bob kept a small code book. He generally (**change**) _____ the passwords every week or two, and the book was where he wrote them down. He wasn't sure if anyone (**look**) _____ in the book. The first thing he did was write a program that monitored access to his files. It kept a record of when the files (**open**) _____. It also made a record of any passwords which (**use**) _____ .
2. Early Monday morning, Bob (**arrive**) _____ at the office and checked the computer. He discovered that someone (**access**) _____ his files twice during the weekend. He looked at the times and (**make**) _____ a note of them. Then he (**check**) _____ to see when his desk (**open**) _____ .

- C. 事実に関する文を読み推論（肯定形か否定形）を選んでください。その際、示された事実だけに基いて選んでください。

1. 事実 : No one opened the desk drawer containing the new codes. The files had been accessed, and the codes were the only way to access the files.
- a. *There might have been another way to access the codes.*
- b. *There must have been another way to access the codes.*
- c. *There couldn't have been another way to access the codes.*

2. 事実 : Whoever it was who wrote the program knows about computers. Dan knows a lot about computers. Phil doesn't know anything about computers.

- a. *Dan must have written the program.*
- b. *Phil might have written the program.*
- c. *Phil must not have written the program.*

3. 事実 : Shirley's flight left at 1:00 P.M. and she checked in around noon. It takes at least an hour to drive from the office to the airport.

- a. *Shirley might have been in the office at 11:30 A.M.*
- b. *Shirley must have been in the office at 9:00 A.M.*
- c. *Shirley couldn't have been in the office at noon.*

4. 事実 : Dan was in the office after 2:00 P.M. on Saturday afternoon but not on Sunday, and Leslie was in the office on Saturday afternoon too. Phil went into the office on Sunday for a couple of hours, but he didn't go into the office on Saturday. The files were accessed on both Saturday and Sunday.

- a. *If the files were accessed on Saturday morning, it might have been Dan.*
- b. *Since the files were accessed on both Saturday and Sunday, neither Dan nor Phil could have done it alone.*
- c. *Dan must have done it if the files were accessed on Saturday afternoon.*

5. 事実 : Leslie was with her husband at the hospital until 11:00 A.M. She came into the office on Saturday after leaving the hospital. Leslie's husband is very sick and they need money.

- a. *Leslie must have done it because she and her husband need money.*
- b. *Since Leslie needs money, she might have done it.*
- c. *Leslie couldn't have done it if the files were accessed Saturday afternoon*

Matrix Vocabulary

語彙の習得 (Vocabulary Practice)

このレッスンでは、語彙の習得と聞き取りに焦点を当てています。5つの課題に関する語彙を楽しく効果的に学習しましょう。



まず、画面左側にあるグラフィックのどれかをクリックして課題を選んでください。選ばれた課題に関するグラフィックが表示されます。それぞれをクリックして文を聞いてください。聞き終わったら「Quiz」をクリックして質問に答えてください。

課題を変えたい時は、画面左側のグラフィックをクリックして選び直してください。

マトリックス ゲーム (Matrix Game)

「Vocabulary Practice」で学習した語句や表現を復習するレッスンです。質問を聞いて正しい答えをクリックしてください。持ち時間は3～5分です。時間内になるべく多くの質問に答え、終了したら得点を確認してください。何回も挑戦して得点を伸ばすようにしましょう。

UF0s（未確飛行物体）

このレッスンでは、UF0（未確飛行物体）の存在の可能性についての肯定論、否定論を聞いて、議論の進め方、重要項目のノートの取り方などを学習します。また、各々の議論に用いられている表現も学習します。ドレイク方程式と相対性理論のセクションでは、関連する理論が説明されます。

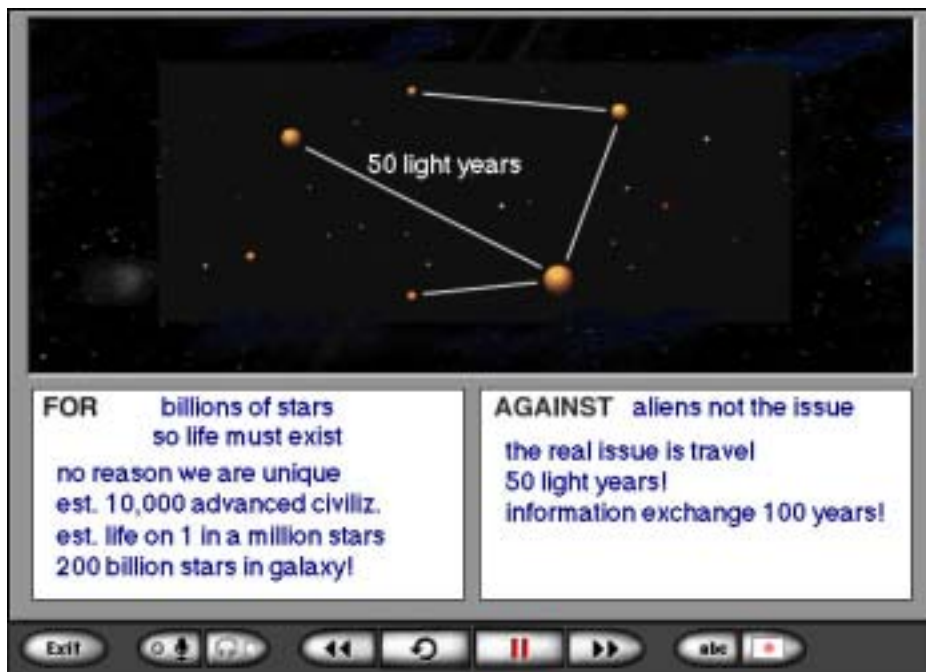
学習事項 1

肯定論、否定論の両方の議論を一通り聞いてください。その際、どこで肯定から否定（あるいは、否定から肯定）に議論が移ったかに注意してください。両論の議論のポイントとそれを裏付ける証拠が、画面の下半分のスペースに表示されます。「True/False」の質問に答えるとき、これをヒントにしても構いません。一通り議論を聞いた後で、どちらにより説得力があるか判断してください。



学習事項 2

まず、UFO の存在の可能性肯定論に焦点を当てて聞き、それから、否定論がどのように反論するかに注意して聞いてください。否定論では、知的生物が宇宙のどこかに存在することを否定する訳ではありません。否定論は、なぜ宇宙人が地球まで到達するのが不可能であるかということを論証しています。もし宇宙旅行が可能だとしたら、その時どのようなことが起こるかを想像して説明していますが、その文章のなかで「would」が使われていることに気をつけてください。



*This means that an exchange of information **would** take 10 years.*

*A journey of this distance **would** be impractical for even an advanced civilization.*

*This means that an infinite amount of energy **would** be required to accelerate it to a higher speed.*

次の表現は主張の基になっている前提を提示するときに使われます。

***Given the fact that** there are one billion stars like ours, it is hard to believe that intelligent life exists only on earth.*

***Some scientists estimate that** as many as 10,000 advanced civilizations exist in our galaxy.*

***It has been well-established that** nothing can travel faster than the speed of light.*

学習事項 3

「光速の壁」の議論（物体が光速以上のスピードを出すことはできないという主張）に対する反論に焦点を当てて学習してください。肯定論では、「光速の壁」の主張は説得力があると認めますが、その後でこれも単なる（そして、間違っているかも知れない）科学理論に過ぎないと反論しています。それに対し、否定論では、科学理論が間違っていることもあるが、光速以上のスピードが可能であるという証拠がない以上、それを受け入れるべきではないと論じています。

肯定論、否定論の結論（下記参照）を比較してみましょう。どちらの主張の方に説得力があると思いますか。「it isn't unreasonable to think that」や助動詞の「might」などは、主張を弱める効果をもたらす表現であることに気をつけてください。

For

It isn't unreasonable to think that such a civilization might have discovered a way to travel near or beyond the speed of light.

Against

There is no evidence to indicate that anything can travel faster than light. On the contrary, all the evidence is against faster-than-light travel.

学習事項 4

UFO 目撃記録についての議論に焦点を当ててみましょう。肯定論側は UFO 目撃の証拠を挙げていますが、否定論側は、ロズウェルのビデオやクロップ・サークルといった証拠は偽物だと主張しています。肯定論側は、否定論側が偽物説を出してくることを予測して、まず、そのことに触れることによって、反対論側の主張を弱めようとしていることに着目してください。どちら側の主張の方に説得力があると思いますか。UFO 目撃の証拠は偽物、あるいは何らかの説明がつくものだと思いますか。



「who claims that」や「is supposed to have」という表現に注意してください。これらの表現は肯定論の主張を弱める効果を果たしています。「in fact」や「there is no reason to believe」という表現は否定論の主張を強めています。

For

In one case, an alien space craft is supposed to have crashed near Roswell, New Mexico in 1947. A video even shows one of the dead aliens being examined at an American military base. Of course, skeptics say the video is a fake.

Against

The Roswell video is, in fact, a clever fake. If such a thing had really happened, there would have been no way to cover it up. There is no reason to believe that the American government would have or even could have hidden the truth for so long.

学習事項 5

結論部分を学習してください。UFO 肯定論は、UFO のような我々の理解を超える可能性に対してオープンな姿勢で望むべきだと議論しています。それに対し、否定論側は、信じこむことは危険であるから、科学的証拠によって支持されないものを信じるべきではないと反論しています。どちら側の主張にも歴史上の事例が使われていることに注目してください。どちらにより説得力があると思いますか。また、何故そう思いますか。

肯定論

However, if we compare what we know now with what we knew two hundred years ago, we can be sure that there will be surprises in the future. How many of us would have believed that the entire universe was at one time smaller than a single atom?

否定論

Our beliefs can be used against us. For example, the Aztecs believed that human sacrifice was necessary to ensure that the sun would rise each day. As a result, hundreds of thousand of people were killed.

両論とも、論法として相手の言い分をわずかながら認め譲歩し、すぐに持論を展開していることに注目してください。「however」や「on the other hand」等の語句は、反論に移る時に用います。

肯定論

[譲歩] *The scientific evidence seems convincing.*

[反論] *However, if we compare what we knew two hundred years ago to what we know now, we can be sure that there will be surprises in the future.*

否定論

[譲歩] *Imagination is a great thing.*

[反論] *However, we must be able to find a balance between wishful thinking and fact. Otherwise, our beliefs can be used against us.*

肯定論

[譲歩] *While it is true that many UFO incidents can be explained,*

[反論] *it is also true that a number of incidents remain unsolved.*

否定論

[譲歩] *There are many questions it [science] can never decide, such as why the universe was created, or what is right and wrong.*

[反論] *On the other hand, we should use it to solve real problems that threaten our existence on this planet.*

両論とも、結論を強調するのに「must」や「should」等の必要性を表わす助動詞を用いていることに注意してください。

肯定論

We should keep our minds open to the possibilities beyond our understanding.

否定論

However, we must be able to find a balance between wishful thinking and fact. It [science] isn't perfect, and we shouldn't become its slave.

Interactive Exercise: 賛否両論を判断する練習

「For or Against?」をクリックしてください。文章を聞いて、UFO 存在の可能性に関する肯定論、否定論のいずれの主張に用いることができるか判断します。

ドレイクの方程式と相対性理論

この議論に関連する科学的根拠を知りたい時は、「Drake's Equation: Intelligent Life」と「Relativity: Rulers and Clocks」のセクションを学習してください。



Interactive Exercise: 文を正しい順に並べかえる練習

文の順序を決める手がかりとなる語句に注意しながら、レッスンをもう一度聞きましょう。下記の(i)～(ii) は、手がかりを示すいくつかの例です（モジュール7、レッスン「伝染病」の学習事項4に記載されている例も参照ください）。文頭のアルファベットをボックスに移動し、正しい順番に並べかえてください。その際、赤で書かれた単語、または、語句が手がかりとなることに注意してください。

- (i) 「however」「in fact」「on the contrary」「on the other hand」等の接続詞は、すぐ前の文と次の文を関連づける働きをします。これらの語句に関する詳細は語彙表を参照ください。

In this case, for example, there is no evidence to indicate that anything can travel faster than light.

[On the contrary], all the evidence is against faster-than-light travel.

The light barrier argument seems persuasive.

[However], it is just a theory.

Given the fact that there are billions of stars like ours, it is hard to believe that intelligent life exists only on earth.

[In fact], some scientists estimate that as many as 10,000 advanced civilizations exist in our galaxy, the Milky Way.

Science isn't perfect, and we shouldn't become its slave.

[On the other hand], we should use it to solve real problems that threaten the existence of our planet.

- (ii) 「This works out....」や「This means that....」等の表現は、前の文の内容を言い換えたり、説明する時に用いられます。

Of these, we estimate that 10% have planets, and that 10% of these have planets like earth.

[This] works out to be about 200 million planets like earth.

Even if we accept that there might be 10,000 advanced civilizations in our galaxy, it is unlikely that any could be closer than 50 light years away.

[This] means that an exchange of information would take 100 years.

On the contrary, all the evidence is against faster-than-light travel.

[This] is one of the most fundamental laws of nature.

練習問題

A. 肯定論に対応する否定論を a~d から選び記号を入れてください。

肯定論

1. ____ We can demonstrate that alien life probably exists.
2. ____ It isn't unreasonable to think that such a civilization might have discovered a way to travel near or beyond the speed of light.
3. ____ There are many people who claim to have seen UFOs.
4. ____ We should keep our minds open to the possibilities beyond our understanding.

否定論

- a. There is no evidence to indicate that anything can travel faster than the speed of light.
- b. We must be able to find a balance between wishful thinking and fact. Otherwise, our beliefs can be used against us.
- c. The real issue is not the existence of life on other worlds.
- d. Without a single exception, none of the reports of UFOs has ever been verified.

B. 下記の (a) (b) どちらの文が強い印象を与えますか。丸で囲んでください。

1. a) The Roswell video **may be** a clever fake.
b) The Roswell video is, **in fact**, a clever fake.
2. a) **It isn't unreasonable to think that** such a civilization **might** have discovered a way to travel near or beyond the speed of light.
b) **It is likely that** such a civilization **will** have discovered a way to travel near or beyond the speed of light.
3. a) A journey of this distance **would** be impractical for even an advanced civilization.
b) A journey of this distance **might** be impractical for even an advanced civilization.
4. a) If such a thing had happened, **there would have been no way** to cover it up.
b) If such a thing had happened, **it would have been difficult** to cover it up.
5. a) If we compare what we know now with what we knew two hundred years ago, **we can be sure** that there **will** be surprises in the future.
b) If we compare what we know now with what we knew two hundred years ago, we **might expect** that there **will** be surprises in the future.
6. a) **There is no reason to believe** that the American government could have hidden the truth for so long.
b) **It is unlikely** that the American government **would** have hidden the truth for so long.

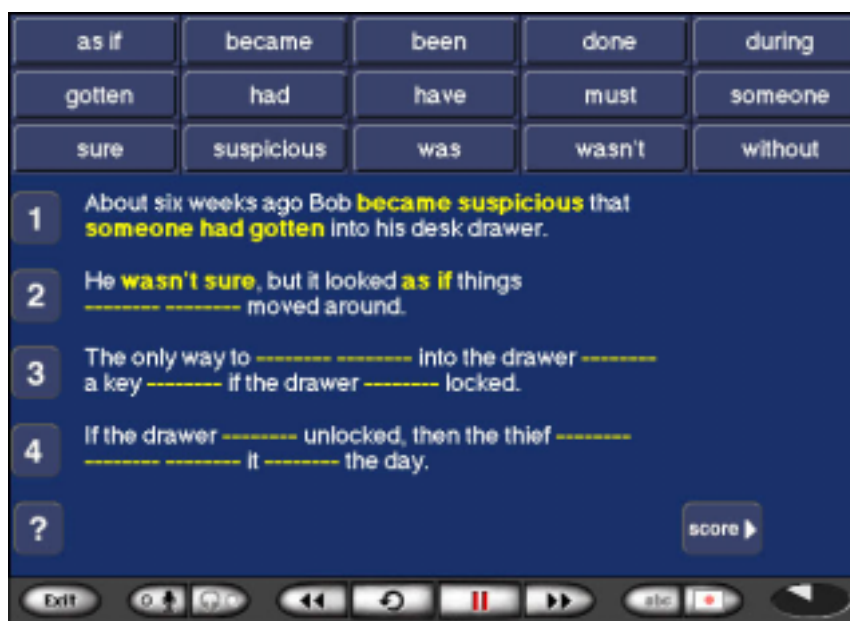
C. 文脈に合った接続詞を選んでください。

1. There is no reason to believe that we are unique in the universe. (*However, In fact*) _____, some scientists estimate that as many as 10,000 advanced civilizations exist in our galaxy, the Milky Way.
2. There have been many reports of UFO sightings. (*However, On the contrary*) _____, none of these reports has ever been verified.
3. It is important to keep our minds open to possibilities beyond our understanding. (*On the other hand, On the contrary*) _____, beliefs can sometimes be dangerous.
4. The light barrier argument seems convincing. (*However, In fact*) _____, scientific arguments have been wrong before.
5. There is no evidence to suggest that anything can travel beyond the speed of light. (*On the other hand, On the contrary*) _____, all the evidence indicates that faster-than-light travel is impossible.

復習 (Review Exercises)

ディクテーション (Dictations)

このレッスンでは重要な単語や語句に焦点を当てて学習します。最初に、レッスンの中の文章が4つ読み上げられます。次に画面が変わり、画面上部に15の語句が表示されます。画面下部には所々空欄がある文が表示され、読み上げられます。



次の順序に従ってディクテーションを進めてください：

1. 文頭の番号をクリックするか、繰り返しボタンを押して文をもう一度聞いてください。繰り返しボタンを使うと、プログラムは一時停止した状態になるので十分な時間をとることができます。
2. 文中の空欄に当てはまる単語を、画面上部にある単語の中から見つけクリックしてください。選ばれた単語が赤い枠で囲まれます。次にその単語の入る空欄をクリックしてください。空欄に選んだ単語が入ります。間違いに気が付いた時は、同じ要領で別の単語をクリックして単語を入れ替えてください。
3. 残りの空欄に単語を入れてください。どの順番で単語を入れてもかまいません。
4. 同じ要領で、2～4も進めてください。

5. 文が完成したら“SCORE”をクリックすると、各文が読み上げられ得点が表示されます。その際、赤で表示された語句は間違いです。
6. 得点が 65% 以下の場合にはもう一度やってみたいかどうか聞かれます。“Yes”をクリックするともう一度最初からディクテーションをすることができます。
7. 得点が 65% 以上の場合は、各文をもう一度聞いて、画面に表示された文を確認してください。赤で表示された単語は間違いです。正しい単語を入れ直してください。
8. 例えば、1 番の文を修正したい時は、まず番号をクリックして文を聞き直してください。次に正しい答えをクリックし、訂正したい文中の単語をクリックします。正しい選択の時は単語が白に変わります。
9. 間違いを直したら、“END”をクリックしてください。同じディクテーションにもう一度挑戦するか、他のディクテーションに進むか聞かれます。また、ディクテーションを終わりにしてメインメニューに戻ることもできます。

穴埋め練習 (Fill-Ins)

1. 文を読んで、空欄に入る正しい答えを、表示された4つの単語から選んでください。その際、画面のグラフィックスを参考にしてください。



2. 答えをクリックするか、音声認識を使う場合は、答えを空欄に入れた形で文を読んでください。音声認識機能は、文を聞き取るように設定されていますので、選んだ単語だけを読むのではなく文全体を読んでください。
3. 文を読み上げると、その文が画面に表示されます。表示された文が読んだ文と同じ時は、「OK」をクリックしてください。表示された文が読んだ文と違う時は、スピーキングボタンをクリックし、スピーチメータが画面に表示されてからもう一度読み直してみてください。音声認識機能に関する詳細は、コースウェアのヘルプメニューの「音声認識」をご参照ください。
4. 自分の声とネイティブの声を比較する時は、音声再生ボタンを使ってください。発音を聞き比べることはとても大切です。
5. それぞれの穴埋め問題に答えると解答が表示され読み上げられます。黄色くハイライトされた答えをクリックするとその単語に関する説明が画面に表示されます。頑張ってください。

スピーキングの練習 (Speech Practice)

グループ 1 : Sentence Reading

1. 画面に表示された文を一文ずつ読んでください。その際、どんな順序で読んでも構いません。
2. あなたが読み上げた文が認識された時は、その文がハイライトされもう一度読み上げられます。
3. 認識されない時は、もう一度やってみてください。文頭のスピーカボタンをクリックするとネイティブによる正しい発音、イントネーションを聞くことができます。
4. それぞれの文は、何度でも練習することができます。次の画面に進むには画面右下の矢印のボタンをクリックしてください。



グループ 2 : Answering Questions

1. 質問をよく聞き、画面に表示されている文を読んでください。
2. 質問に対する正しい答えを選んでください。考える時間が必要な時は、一時停止ボタンを使ってください。再生ボタンをクリックすると、プログラムは再開されます。
3. スピーチメータが画面に表示されたら答えを読み上げてください。それぞれの文の前のボックスか文自体をクリックして答えることもできます。
4. 読み上げた文が正しい答えか否かにかかわらず、文が認識された時は文の前のボックスにチェックマークがつきます。
5. 正解の場合は、その文がハイライトされます。



グループ 3 : Inferences

1. 画面上部に表示された文を読んでください。事実を述べている文です。
2. 仮定法を用いた文の中から適当なものを選びます。考える時間が必要な時は一時停止ボタンを使ってください。再生ボタンをクリックするとプログラムは再開されます。
3. スピーチメータが画面に表示されたら答えを読み上げてください。文の前のボックスか文をクリックして答える事もできます。
4. 読み上げた文が正しい答えか否かにかかわらず、文が認識された時は文の前のボックスにチェックマークがつきます。
5. 正解の場合は、その文がハイライトされます。

グループ 4 : Speech Quiz

1. グループ 1 ～ 2 の中の問題が 1 5 問アトランダムに出ます。
2. 得点は、画面の右上に表示されます。但し、グループ 1 の問題では同じ文を何回でも読むことが出来ますが、最初に認識された時にだけ得点が加算されます。
3. それぞれの問題は、他のグループの答え方と同じです。

ビデオ会話 (Video Interactions)

このレッスンでは、あなたが学習してきた英語を、ネイティブの人々が実際にどのように使っているのかをビデオで紹介します。又、ネイティブの人々と英語で話すのがどのようなものなのかを実際に体験することができます。ここでは、電話での応対の仕方やその他、日常生活の様々な場面で役立つ表現を学習します。

学習は次の要領で進めてください：

1. まず、プレゼンテーションを一通り聞き、会話全体の内容を把握してください。その際、人物の表情や動作にも気を付けてください。
2. プレゼンテーションの文をもう一度、一文ずつ繰り返し聞いてください。また、テキスト表示ボタンを使って文をよく学習してください。ハイライトされた単語をクリックすると用語表が表示されます。単語の意味や例文などを読み、語彙の学習もしてください。ハイライトされていない語句でわからないものがあれば辞書を使ってください。
3. 今度はプレゼンテーションの中の文を声に出して言う練習です。最初は文を全部言おうとせず、短い句に区切って言うてみてください。
4. 次は、インタラクティブ セクションです。ビデオの中の人物になって会話をします。ビデオ・スクリーンの右側に文が表示されます。その中から適当なものを選んでください。表示された文の中には、会話のその場面に適切なものが複数含まれていることがあります。スピーチメ [タが画面に表示されたら、できるだけはっきりと文を言うてみてください。音声認識を使わず、選んだ文をクリックして答えることもできます。
5. 1～4までのステップが終わったら、もう一度復習してください。何度も復習することで語学習得をより確実なものとし、スピーキング力も飛躍的に向上します。

学習事項 1

ビジネスでの電話の対応の仕方を学習します。Mike Lynch がどのように Mrs. Cole に会う約束を取り付けようとしているか、そして、Mrs. Cole がいかにしてその申し出を、失礼のないように断わっているかに注目してください。二人とも「want」を使わずに、より丁寧な表現である「would like」を用いていることに注意してください。

We'd like to visit your office and meet with you to discuss how to improve your business.

My business is fine, thanks. But if you'd like to send me some information about your company, I'd be happy to read it.

学習事項 2

友達と電話で話します。Bob は自分が行かなかったパーティーに Carmen が来ていたことを知り、気を悪くします。Carmen がパーティーに来るかもしれないことを、Dawn がなぜ Bob に教えなかったかを説明する時の条件節の使い方に注意してください。また、Bob の会話で使われている過去の事実と反する表現に注意してください。



Bob: I would have come for sure if I had known.

Dawn: Well I wasn't sure if she was coming or not.

Bob: You should have told me anyway.

Dawn: I didn't want you to be disappointed if she didn't come.

学習事項 3

UFO に関するインタビューです。もし UFO に遭遇したらどうするかについての質問を良く聞いてください。仮設や単なる想像に関して質問する時、条件節の中で動詞の過去形 (told や offered) が使われることに注意してください。

*If someone **told** you that aliens were coming to Earth, **would** you be excited or afraid?*

*If they **offered** to take you back to their world, **would** you consider it?*

UFO に関する質問の応答を良く聞いてください。「would」または省略形の「'd」が応答の殆どに用いられていることに注意してください。

*I think **I'd** be excited at first.*

*But then **I'd** probably be afraid.*

*If they came, **they'd** be more advanced than we are, so maybe **it wouldn't** be good for us.*

*It **would** be great!*

学習事項 4

記者会見であなたがスポークスマンにインタビューします。可能な質問が画面の右側に表示されます。スピーチメータが表示されたら、好きな質問を選びできるだけはっきり言ってください。音声認識を使わずに文をクリックして質問することもできます。

付録1：音声認識機能に関する注意事項

指導者の方へ

ダイナミック イングリッシュで使われている音声認識機能は、最新の画期的な機能です。音声認識機能の性能を十分に理解し、この新しい技術を最大限に活用していただく為に、以下の点を念頭においてご指導ください。

1. 音声認識機能を有効に使うことは、スピーキングの良い練習になります。しかし、正確な発音を指導するという事に関しては、まだ技術的に限界があります。音声認識機能を使ったレッスンを繰り返し学習することで確かに発音は上達しますが、発音矯正の為のコースではありません。
2. 制限時間内に答えたり、マイクロホンの正しい使い方に慣れるのに時間がかかります。充分練習してください。
3. マイクロホンは適切な位置に置くようにしてください。近すぎたり遠すぎたりすると正しい結果が得られません。
4. 音声認識機能が正しく動作しない場合は、画面上部の音声認識メニューの中のリセットを使って音声認識機能を設定し直してください。また、一旦レッスンを終了し、メインメニューに戻ると音声認識機能は、自動的に設定し直されます。
5. 音声認識のレッスンを声質の違う学習者が交代で使うと音声認識機能が正しく動作しないことがあります。学習者が代わる時は、音声認識メニューのリセットで音声認識を設定し直すか、一旦レッスンを終了し、メインメニューに戻ってください。

指導にあたっての注意事項

音声为正しく認識されにくい時は、以下のことをご指導ください。

1. スピードを変えて読むようにしてください。
2. 例えば “he is going” を “he’s going” と短縮形で読んでみてください。また逆に、“where’re you from” を “where are you from” と一つ一つ読んでみてください。
3. 何回しても単語が正しいと認められない場合、アクセントを変えてみてください。例えば、fifteen は i にアクセントがある場合と e にアクセントがある場合があり、i にアクセントがあると fifty と間違えやすくなります。
4. 難しい発音の仲間を見つけ出してください。例えば her と are は両方とも r の音で終わります。このような難しい単語は、ネイティブの発音をよく聞くようにしてください。
5. 画面上部にある音声認識メニューの「上級」が選択されている場合、音声認識機能は発音に対してかなり厳しくなり、選択されていない場合に比べると日本人の学習者では、正解率は10～15 パーセント低くなります。
6. 音声認識メニューの「上級」が選択され、ネイティブスピーカが妥当なスピードで鮮明に発音した場合、正解率は普通 85～95 パーセントです。初級の学習者で音声認識メニューの「初級」が選択されている場合、最初正解率はだいたい 60～80 パーセントですが、練習することによってかなり上達します。自信がついたら「中級」から「上級」へと進めてください。
7. 音声認識機能を使って学習しているときは、できるだけ録音された自分の声を聞くようにしてください。音声再生ボタンをクリックして自分の声を聞き、次に繰り返しボタンをクリックしてネイティブの発音と聞き比べるようにしてください。音声再生ボタンと繰り返しボタンは何度か使用しているうちに慣れてくるはずです。

学習者の方へ

このコースウェアは、音声認識機能を使って楽しく効果的にスピーキングの練習をすることができます。明確な発音と流暢な話し方を上達させると同時に、重要な文の構成をさらに学習し、語彙を増やします。最初にメインレッスンで録音機能を使って自分の声とネイティブの声を聴き比べる練習を充分してから、音声認識機能を使ったスピーキングの練習をしてください。音声認識機能は、正しいと認められるのにある程度の流暢さと速度を要求されるので、英会話の初歩の方には少し難しいかもしれません。

付録 2 : Verb Markers

ニューダイナミックイングリッシュの用語表には、次の様な 5 つの verb markers が表示されます。

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 1. V(d) | lived, ate, came, was, had, went |
| 2. modal | will live, may eat, can go |
| 3. have+V(n) | has lived, has eaten, has been |
| 4. be+V(ing) | is living, is eating, is going |
| 5. be+V(n) | is eaten, is sold, is converted |

上の表で V(d)は過去形、V(ing)は進行形、V(n)は過去分詞を表わします。下の表はその幾つかの例です。

V	V(d)	V(ing)	V(n)
be	was/were	being	been
work	worked	working	worked
speak	spoke	speaking	spoken
eat	ate	eating	eaten

verb marker は単独で使ったり、組み合わせて使い新しい動詞を作ったりします。例えば動詞 eat を marker 1 に当てはめると ate (He ate dinner) となり、marker 4 にあてはめると、is eating (He is eating dinner) になります。marker 1 と marker 4 を合わせると、was eating (He was eating dinner) となります。もし、5つのうちのどれにも合わせられないと、単純現在時制 (He eats dinner every evening) という事になります。

次は 2 つの verb marker を組み合わせて使った幾つかの例です。

1+2 V(d) modal	could go, might come, would sell
1+3 V(d) have+V(n)	had gone, had come, had sold
1+4 V(d) be+V(ing)	was going, was coming, were selling
1+5 V(d) be+V(n)	was made, was eaten, were sold
3+4 have+V(n)be+V(ing)	have been living, has been selling
3+5 have+V(n)be+V(n)	have been eaten, have been sold

verb marker を組み合わせて使う時は、小さい数の marker が大きい数の marker の前に位置します。例えば、動詞の sell を marker 3 と marker 5 と組み合わせた場合は、3+5 has been sold というように marker 3 は marker 5 の前に来ます。marker 5 が marker 3 の前に来て 5+3 be had sold となるのは誤りです。

verb marker についての説明は、各 verb marker の用語表の画面を参照してください。

付録 3 : 練習問題の解答

暗号 (The Secret Code)

練習問題 A

Shirley (e)

Phil (a)

Bob (c)

Dan (b)

Leslie (d)

練習問題 B

1.

had gotten

had been moved

changed

had looked

were opened

were used

2.

arrived

had accessed

made

checked

had been opened

練習問題 C

1. b
2. c
3. c
4. b
5. a

UF0s (未確飛行物体)

練習問題 A

1. c
2. a
3. d
4. b

練習問題 B

1. b
2. b
3. a
4. a
5. a
6. a

練習問題 C

1. In fact
2. However
3. On the other hand
4. However
5. On the contrary

Copyright © 2003 DynEd International, Inc. All rights reserved.

QuickTime™とQuickTimeロゴは法的に使用許可を得た商標です。

Version 3.0

1/00